

災害など、心が傷ついた出来事を語ることは、強い苦痛を引き起こす可能性があるため、報道取材を受けるにあたっては、お子さんに十分な配慮が必要です。

しかし大人も動揺しているときには、十分な気遣いが出来ないかもしれません。子どもも、大人に気にいられようと無理をしたり、取材後に気持ちが不安定になったりする事があるため、次の点に注意して下さい。

■子どもには、次の事を伝えて下さい。

取材する大人は、たいてい子どもが嫌な思いをしないよう配慮してくれますが、子どもたちも覚えておいた方がいいことがあります。

- 取材は必ず保護者から許可をとる事になっています。だから、許可を受けないまま取材をうけないようにしましょう。
- 取材を受けるのがいやな時は、断る事が出来ます。
- 「取材ではこうしてほしい」という希望を伝える事が出来ます。

例) 顔をうつさないで欲しい・泣いている所を撮らないでほしい・このメッセージは必ず入れてほしい など

- 取材を受けた後、嫌な気持ちになったり、「取材を受けなきゃよかった」と思ったり、なんだか怖くなったたりした時は、お父さん・お母さんや、自分を守ってくれる大人にその事を話しましょう。

■保護者の方へのお願いです。

- ◎ 子どもがまだ安心・安全でない状況では、取材を受ける事でさらに不安定になる可能性があります。あまり無理をさせずに取材を断ったり、延期するようお願いして下さい。
- ◎ 「取材を受けることを断ってもいいんだよ」と必ず子どもに伝えて、子どもの意思を尊重して下さい。また、取材場所は原則として子どもが安心できる所とし、できるだけ被災現場では取材を受けないようにして下さい。
- ◎ 取材を受ける上で、子どもの「こうしてほしい」という希望があれば、それを取材スタッフに伝えるお手伝いをお願いします。
- ◎ 事前にインタビューや質問の内容を確認し、それが子どもの状態にふさわしくないもの（特に子どもの辛さや悲しみを助長する質問、被災体験を直接語らせる内容）であれば、その質問を省くか、別の形に変えるよう交渉して下さい。
- ◎ 取材にはできるだけ立会い、カメラが回っている最中に予定外の不適切な質問が出た場合は、途中で中止させて下さい。
- ◎ インタビューの後は、特別な扱いはせず、それまで通りに接して下さい。
- ◎ 取材後に普段と変わった様子がないか、しばらくは気にかけてあげて下さい。
- ◎ 気になる様子があれば「取材を許可したのは大人で、責任は大人が持つ」ということを説明し、子どもには「あなたは間違ったことをしていないよ」と伝えて下さい。症状が気になる場合は、医師や保健師などに相談して下さい。

■ このリーフレットは、日本小児精神医学研究会より地震の際に配付されたものです。

お問い合わせ先：

HP アドレス http://homepage2.nifty.com/jspp/jspp_website/JSPP_zai_hai_yong_gong_youfairu.html